

MACN と当協会による合同セミナーを開催 ～海事汚職問題について理解促進を図る～

当協会は海事汚職問題に対する会員会社の理解促進を図るべく、10 月 30 日（月）に海事反汚職ネットワーク（MACN）※と合同でセミナーを開催しましたので、その模様について以下の通りお知らせします。本セミナーには対面・オンラインあわせて約 60 名が出席、セミナー後のネットワークランチでも活発な意見交換が行われる等、海事汚職問題への関心の高さがうかがえました。

1. 合同セミナー

当協会土屋常勤副会長は冒頭挨拶の中で、MACN の当協会来訪に歓迎の意を表するとともに、ファシリテーション・ペイメント問題に取り組む上で関係者間の連携が極めて重要となるところ、今後も MACN、当協会およびアジア船主協会（ASA）が協力し、本問題に対する理解促進を図っていきたい旨述べました。

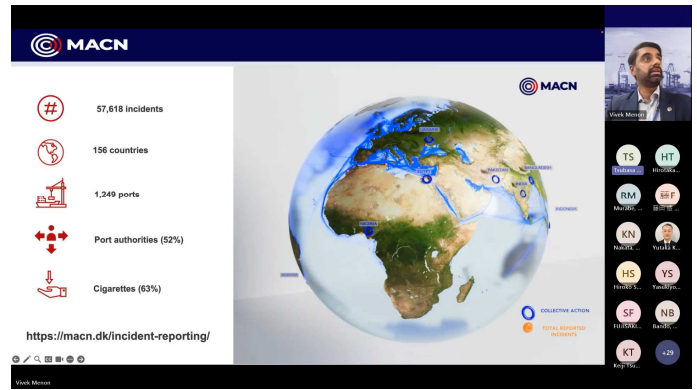
続いて、MACN の Vivek Menon アソシエイト・ダイレクターが講演を行い、海事汚職の現場で実際に対応することとなる船員の精神的苦痛や安全な職場環境を阻害するリスクを指摘するとともに、海事関連セクターや各国政府（港湾当局）等との幅広い連携による、反海事汚職に向けた体制構築の必要性を強調。その上で、同団体が運営する“Anonymous Reporting System（匿名通報システム）”や世界各港における汚職事案リスクを評価した“The Global Port Integrity Platform(GPIP)”、そしてナイジェリア等 4 カ国に設置されている“Local Help Desk”の積極的活用を呼びかけました。

講演後、出席者から「Local Help Desk が無い国・地域ではどう対応すればよいのか」といった質問に対し、Menon 氏からは「当該国では寄港前に（MACN データベースに蓄積された）過去の事例を十分把握する等の事前準備が肝要」との回答がありました。

2. ネットワークランチ

セミナー終了後には、MACN と当協会会員会社（対面出席者）が（コーヒーとサンドウィッチを片手に）ネットワークランチを開催、各社の海事汚職遭遇事案や MACN の今後の展望等について活発な意見交換が行われました。

セミナーの出席者からは、「海事汚職問題についてより深く知る機会となった」「Local Help Desk をはじめとするネットワークの輪がより広がると有難い」といった感想が寄せられました。当協会は今後とも ASA とともに、会員会社等の海事汚職問題に対する理解の促進に向けた活動を行ってまいります。



セミナーの様子（1 枚目左から、MACN の Menon 氏、Somerville-Ryan 氏）



ネットワークランチの様子

※MACN (Maritime Anti-Corruption Network)

海運業界における公正な取引の実現に向け、腐敗排除・防止を目的とした活動を行っている国際民間組織。2011 年に設立、本部はコペンハーゲン。政府関係者や国際機関等、主要なステークホルダーと協力し、海運業界に係る腐敗の根本的な原因の究明と、その軽減を目指している。加盟会社は 190 社以上にのぼる。

MACN HP : <https://macn.dk/>

以上